

第8回洋上風力発電ゾーニング協議会 議事概要

日 時：令和2年6月19日（金）14：30～16：30

場 所：久慈市防災センター 3階防災教育ホール

出席委員：三宅座長、北澤委員、浦委員、佐野委員、森山委員、山田委員（代理：馬内）、梶委員（代理：濱欠）、山本委員（代理：館）、川代委員、山王委員、外久保委員、今井委員、藤田委員、佐藤委員、高橋委員、池田委員、嵯峨委員（生活福祉部長）、嵯峨委員（企業立地港湾部長）

1. 主な議事

【市長挨拶】

導入促進エリアや保全エリアの設定の協議会、今年度は最終の3年目になる。実効性のあるマップを作成したい。再エネ海域利用法など社会的背景や久慈市の経済発展の観点から久慈市沖での大規模洋上風力を実現したいので、活発な検討をお願いしたい。

【議事1】 第7回協議会の振り返り

【議事2】 今年度の事業計画、次年度以降の展望

【議事3】 今年度の進捗状況

2. 主な意見等

【議事1関係】

- ・景観は、角度のみ重視するのではなく、同じ性質のものが並んでいるときに認識されやすくなるので、注意して検討してほしい。

【議事2関係】

- ・ワークショップはどのような形を想定するか。人数、やり方など。
→議論する人数は10人程度、まずは漁船漁業者の代表者中心にお集まりいただく。漁のご都合がつく方がいれば10人以上でも。それでも漁業者の一部なので、要望があればこちらから出向いで説明し、ご意見を伺う。
- ・勉強会に事業者に来てもらうようなイメージではないのか。
→前回の勉強会のようなイメージはなく、今回は漁業の生産活動と洋上風力ということで議論したい。第1回は三宅座長に講師をお願いしている。
- ・促進区域指定の展望について、早い段階で風車を建てる前提で話をすると、そのように意識されるので、答えが変わってくるのではないかと。
→4月に漁船漁業者協議会役員にヒアリングでは、まだ促進区域指定についての話はしていない。ゾーニング実証事業の説明をして、将来促進という形で実行できるように向けていきたい考えである旨の話をした。漁業者の利得を侵してまでやりたいという話ではなく、場所や時期など漁業の状況をお聞きしたという状況。あくまで、ヒアリングをした結果で促進区域が見えてくると思う。展望についての表現、書き方は意見を聞いて検討する。

【議事 3 関係】

- ・事業者ヒアリングについて、興味がある事業者が多く、特に浮体式への興味が多いが、これまで例がないということで、将来的に挑戦をしていこうという考えが伝わってきた。浮体式の技術面、コスト面などまだ課題があると思うが、仮に建設する場合、通常の合意形成、工事手続きなど順調に進んで着工するまで早くて何年くらいかかるか。
- 難しい質問だが、地元との合意形成は、事前準備ができていますので早いのではないかと思います。回答した事業者も次のステップとして浮体式をイメージしているだろうと思うので、少し時間がかかるだろうが、格段に技術進歩している印象がある。着床型の洋上風力のアセスは2015年頃から出てきており、陸上風力と比べて時間的には詰まってきている状況を見ると、そう遠くない。10年かからないのでは。事業者の考えも聞く必要がある。
- 第6回協議会の勉強会の日立造船の事例では、協議に8年かかったということなので、10年というのはいい線ではないかと感じる。漁業者ヒアリングでもまだ説明していないので、これから漁業者にご協力いただき、市から説明させていただきようお願いします、進めていきたい。
- ・合意形成や手続き協議にどれくらいかかるか見えないところもあるが、建設・操業まで含めた見通しがあれば、今後の参考となる。
- ・洋上の海底ケーブルができると、岩盤だと埋設できないので底引などで魚が獲れなくなると思うが、漁業者ヒアリングで説明したか。
- そのような説明はしていない。今後細かく説明する。
- ・漁業者ヒアリングで、今のところ120m以深ならいいという意見が多く、ゾーン④で重点的になっていくとあるが、この全域が対象になるのか。
- ゾーン④の中でも、どこがいいかをこれから絞り込んでいく。
- ・10年ぐらい経つ海外の洋上風力で、魚の変化など事後調査の情報を調べてワークショップで紹介できないか。論文になっていないと思うが、事業者が持っている情報などを収集できないか。
- なかなか難しい。海洋フォーラムの講演で、渋谷潜水さんが実際に海外の漁師に聞いたところ、影響はないという話だった。引き続き論文などないか探したい。
- ・先進地視察について、由利本荘には実際には建っていないので、銚子で、1本だけでも建っているところを見てはどうか。銚子も有望地域となって漁業者と話し合いをしており、状況は由利本荘と近い。北九州もNEDOの実証機が沖合にできた。なお、由利本荘の事業者はもともと沖合につくろうとしたが、ハタハタが5~10kmあたりで獲れるので、1~1.5kmの浅い方に移った経緯がある。そういったことも踏まえて視察地を検討してもよい。
- ・大勢で行くとなると近い場所になるのだろうが、少数で行ってそれをきちんと報告するという方法もあると思うので、検討してほしい。
- ・ワークショップは漁業者個人のご意見というより久慈の漁業をどうするかという観点から聞くとよいのでは。風車を建てる場所で漁業をしないのではなく、両者が共存することも検討するとよい。操業形態を変えなくても、カゴの設置位置を変えるなど、現状の漁業を変えずに風車と共存できるようなものが考えられるとよい。
- ・用語の確認。“設備容量”と“発電容量”のどちらか。また、風車1基あたりか、全体で想定しているのか。
- “発電容量”に統一する。合計の容量を想定している。

- ・その場合、風車 1 基の発電規模はずいぶん少ない。となると、高さもそれほどないので、沖合 10km では見えないのでは。

→岸の近くでは小さいものを想定されているようだが、洋上風車の最大は 10MW なのでそれなりの大きさがある。

- ・北九州の風車はもっと小さいが、10km 以上沖で天気がよいと見える。

- ・フォトモンタージュも含め条件をきちんと整理してほしい。高さ 200m とした出力の想定等を明記すると誤解がない。

- ・沖合 10km、水深 100m を超えた範囲で想定される風車の係留範囲は。

→様々な方式があるので、メーカーに確認する。

- ・ワークショップやヒアリングに向けて、議論を詰めていくときにそのような数値も示す必要がある。詳細の条件を整理して示した方がよい。係留の方式も変わっていく可能性があるとして、今の技術で、大きさなどどんなものができるか分かる資料が必要である。特に海の下の方は分かりやすくしていく必要がある。

- ・ポスターを協議会名で出すのであれば、事前に委員に示してもらえれば意見を出したい。ポスター展示の意見聴取は、簡易的なアンケートで意見をもらえるようにするとよい。展示場所は、海岸、侍浜キャンプ場など現地に近いところでも、可能ならやった方がよい。

- ・風車の見え方は、印刷物だと見えにくいので、大きいモニターで見せるなど、方法を検討してほしい。

【その他】

- ・次回の協議会は 11 月～12 月に予定している。必要に応じ途中経過をお知らせしたい。ワークショップの協力もお願いしたい。